

ぜんそく日誌



病院名 _____

主治医 _____

電話番号 _____

FAX番号 _____

名前 _____ 男・女

生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (_____ 歳)

住所 _____

電話番号 _____

(記入開始 _____ 年 _____ 月 _____ 日)

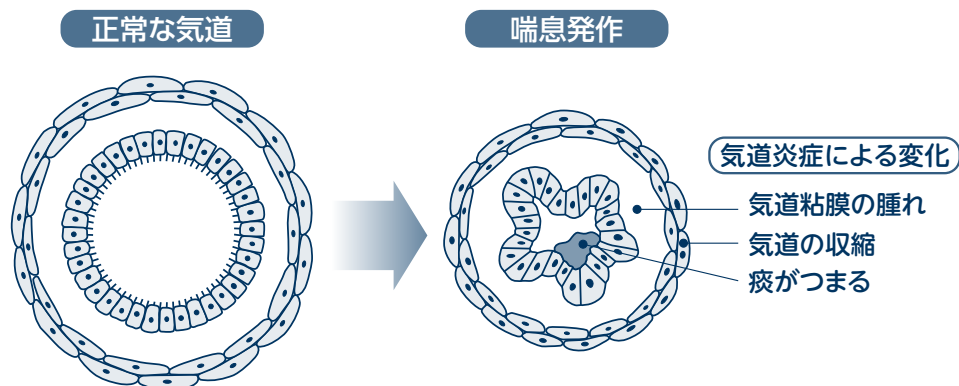
— 喘息の患者さんへ —

気管支喘息は発作を繰り返す慢性の病気なので、治療は根気よく続けることが大切です。

この喘息日誌は、医師にも患者さんにも喘息の症状の経過がよくわかり、最も適切な治療を進めていくのに大変有用な情報となります。

来院の際には必ず持参してください。

喘息とは、気道が慢性的に炎症を起こしている状態です。
そのため、気道が狭くなったり、刺激に対して過敏になり、喘息を繰り返します。



❁ 喘息の症状は

喘息の発作は、夜間から早朝にかけて起こることが多く、その症状は咳、喘鳴（呼吸をするときに“ゼーゼー”“ヒューヒュー”といった音がすること）、胸苦しさ、呼吸困難、息切れなどです。

喘息は、普段からきちんと薬を服用し、発作を起こさないように予防することが大切です。

❁ 喘息の治療薬

喘息の治療薬には、以下のものがあります。

① 長期管理薬（コントローラー）

喘息の治療薬です。

気道の炎症を抑えたり、長期的に気道をひろげる働きがあり、吸入ステロイド薬などが使用されます。

吸入ステロイド薬は毎日吸入することが大切です。自分では調子よくなったと思っても、気道の状態は症状と一致していないこともあります。自己判断による中止は喘息の症状を悪化させる危険性がありますので、必ず主治医の指示にしたがってください。

② 発作治療薬（リリーバー）

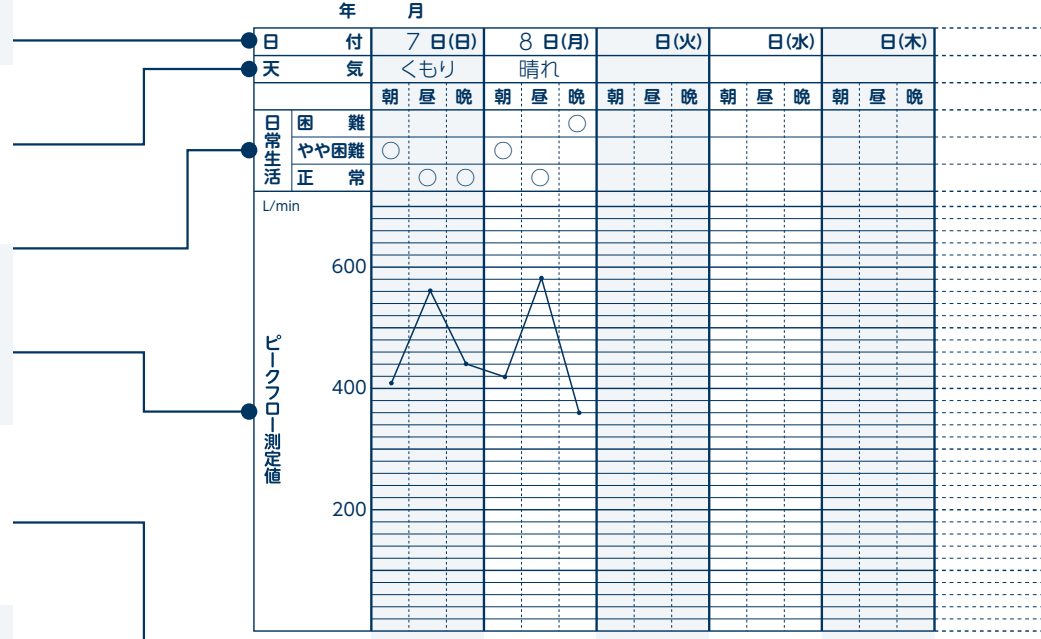
発作が起こったときに発作を速やかに抑えます。

気道のけいれんや収縮をやわらげ、空気の通りをよくする働きがあります。

発作を抑えるには吸入のタイミングが重要です。また、発作治療薬である β_2 刺激薬は、決められた回数以上に使用すると動悸などの副作用が出現したり、効果が弱まったりすることもありますので、主治医の指示にしたがい、正しく使用するようにしてください。

年 月

日 天	付 気	日(日)	日(月)	日(火)	日(水)	日(木)	日(金)	日(土)				
	日常生活								朝	昼	晩	朝
困 難												
やや困難												
正 常												
L/min												
600												
400												
200												
ピークフロー測定値												



発作状況	大発作								
	中発作								
自覚症状	小発作				○				
	ぜいぜい	○			○				
治療状況	発作なし	○	○		○				
	のどの症状	○			○				
備考	せき				◎				
	たん		○		◎				
吸入ステロイド薬	短時間β ₂ 刺激薬	1	1	1	1				
	長時間β ₂ 刺激薬				2				
吸入抗コリン薬	キサンチン系気管支拡張剤	○	○	○	○				
	ロイコトリエン拮抗薬		○		○				
抗アレルギー薬	その他	○		○					
	備考				夜間発作のため、病院で吸入				

